

2021 年度 名古屋芸術大学 入学試験問題
一般選抜「一般入学試験 1 期」

入試問題提出様式

試験科目：「小論文」

日 程：2020 年 2 月 2 日（火）

試験時間：50 分 / 解答字数：800 字程度

芸術 学部 芸術 学科 音楽 領域

対象コース： ウインドアカデミー、ワールドミュージック、サウンドメディア・コンポジション、ミュージックエンターテインメント・ディレクション、音楽総合

[課題]

アフターコロナ（ウィズコロナ）時代において、音楽またはエンターテインメントはどのように変化、発展すると考えるか、あなたの意見を述べなさい。

[出題の意図等]

2021 年度入学生が卒業する頃にはコロナ問題も解消しアフターコロナという新しい時代に社会人となる。コロナ禍でエンターテインメントの世界がどのような変化をしているのかの見地を確認するとともに、今後の発展をどのように考え、各々が学ぶジャンルの役割を理解し、自分が学ぶべきことが何なのかを確認する。

模範解答

私はコロナ禍後のエンターテインメントは、大きな発展を果たすと考える。現在コロナ禍において、それ以前と同様の形でコンサートや演劇などを行うことには様々な規制が伴い、会場に集まった多くの観客に直接パフォーマンスを届けることは困難な状況となっている。そのため、各団体や音楽家、アーティストは、様々な工夫をしてパフォーマンスを披露する機会を作っている。

その中でも大きな役割を果たしているのがインターネットだ。パフォーマンスを撮影、編集して YouTube で公開したり、様々な SNS でそれらを紹介したりする。zoom などのツールを使用すれば相互にコミュニケーションを取ることにもできる。ヤマハのシンクルームというシステムは、遠隔であってもタイムラグがほとんどなく、リアルタイムで歌や楽器によるセッションを可能としている。これらのシステムを利用してライブや配信、さらにアーカイブによる鑑賞ができるため、聴衆は場所や時間に拘束されずにパフォーマンスを楽しむことができるようになってきている。配信以外では、演奏会などのプログラムや冊子も電子化すれば非接触で渡すことができるし、チケットも電子化すれば、わざわざ購入しに行かなくてもスマートフォンで受け取りが可能だ。これらのサービスはすでに使用してされており、今後 5G など通信技術が発展していくとともに更に便利になっていくであろう。

この様に、コロナ禍によってエンターテインメント業界でも今までにないインターネットの利用方法が生まれてきている。世界中のパフォーマンスが身近になり、よりリアルに楽しめる様になったとも言える。パフォーマンスを提供する側にとっては、世界中に自分の表現を発信することも、もはや夢物語ではない。国際コンクールなどもわざわざ開催地に行かなくても受けることができるようになるかもしれない。世界中のプレーヤーからレッスンを受けたり技術を学んだりすることもできるだろう。

コロナ禍によって、我々が思いがけず手に入れたこれらのデジタル技術に関する新しい経験は、アフターコロナ時代にあっても、音楽・エンターテインメント業界にとって、新たなメリットとして活かされると私は考える。多くの人が集まって音楽やエンターテインメントを共有することの重要性が消えることはなく、むしろ相乗効果によって、音楽、エンターテインメント業界は、より多様性に富みグローバルなものとなり、これまで以上に発展していくであろう。